

農政の動き 12月1日～12月8日

◎バターなどの需給「安定的に推移」の見通し

農林水産省は、乳製品需給等情報交換会議を開き、年末の最需要期に向けてバターなどの需給は「安定的に推移する」との見通しを示した。10月までの乳製品の生産量や輸入量、期末在庫量の予測などを踏まえた。なお、10月の全国の生乳生産量は前年同月比23.2%増の60万688トとなり、14カ月ぶりに前年同月を上回った。(12月1日)

◎南極オゾンホール最大の面積が最少に

2017年の南極オゾンホール最大の面積が1878万平方キロメートルとなり、1988年以来の最少となったと、気象庁は発表した。成層圏が高温で推移し、オゾン層破壊の進行が抑えられたためという。ただ、オゾン層破壊物質の濃度は依然高い状況にあり、世界気象機関(WMO)などは、オゾンホールがほぼ見られなかった80年の水準に回復するのは、21世紀半ば以降と予測している。(1日)

◎流木対策 全国約1200地区で必要

林野庁は、九州北部豪雨等による流木災害を受けて崩壊土砂流出危険地区等の緊急点検を実施した結果、緊急的・集中的に流木対策が必要な地区は全国で約1200地区に上ったと発表した。同庁は今後3年間で、流木捕捉式治山ダムの設置や間伐による根系などの発達促進等の対策を実施する。(1日)

◎16年度の畜産物生産費を公表

農林水産省は、2016年度の畜産物生産費を公表した。1頭当たりの全算入生産費は、全畜種で前年を上回り、特に素牛(もとうし)価格の上昇で乳用雄育成牛の増加幅が大きくなった。▽肉用牛=肉専用種の子牛は、2.4%増の60万4734円で、去勢若齢肥育和牛は7.1%増の114万6901円。乳用雄は、育成牛が28.5%増の21万4440円で、肥育牛は8.1%増の50万5244円だった。交雑種は、育成牛が14.8%増の33万5244円で、肥育牛は2.3%増の76万9384円。▽牛乳=搾乳牛は0.2%増の73万8314円だった。(5日)

◎ピワ種子粉末の食品から高濃度天然有害物質

ピワの種子を粉末にした食品から、天然の有害物質が高濃度で検出され、製品が回収される事案が複数あったとして、農林水産省が種子の加工品を摂取しないよう呼びかけている。ピワやアンズなどバラ科植物の未熟な果実や種子の部分には、アミグダリン(シアン化合物の一種)などの有害物質が多く含まれており、多量に摂取すると健康を害する恐れがあるが、インターネットなどでピワの種子は健康に良いとのうわさが出回っているという。同省は種のまま調理する場合も注意が必要としている。(6日)

◎サトウキビ交付金など4年連続で据え置き

政府・与党は、2018年産の甘味資源作物の生産者交付金単価を決めた。サトウキビ交付金はトン当たり1万6420円で、基準糖度帯13.1～14.3度とし、ともに4年連続で据え置いた。でん

ぶん原料用カンショの交付金単価も、4年連続でトン当たり2万6千円に設定した。(7日)

◎天皇陛下の退位日は19年4月30日

政府は閣議で、天皇陛下の退位日を2019年4月30日とする政令を決定した。翌5月1日に皇太子さまが即位し、改元される。新元号は来年半ばに公表する方針。(8日)